

研究タイトル：

漢文資料を通じて見る『般若灯論』の成立と伝承



氏名： 田村 昌己 / Masaki Tamura E-mail: tamura-m@dg.kagawa-nct.ac.jp

職名： 講師 学位： 博士(文学)

所属学会・協会： 国際仏教学会(IABS)、日本印度学仏教学会、日本佛教学会、インド思想史学会

キーワード： インド仏教、中観派、パーヴィヴェーカ、『般若灯論』、漢訳、チベット語訳、日本古写経

技術相談
提供可能技術：
・インド思想・仏教思想に関する講座
・サンスクリット語講座
・サンスクリット語文献・古典チベット語文献の講読

研究内容： 日本古写経を用いた漢訳『般若灯論』のテキスト校訂と翻訳上の特徴分析

インド大乘仏教中観派の実質的創始者であるパーヴィヴェーカ(490-570年頃)に着目し、「彼を視座としたときインド仏教史・インド哲学史は一体どのように捉えることができるのか」という一貫した問題意識のもと、インド仏教・インド哲学の研究を進めている。

現在は、そのなかでも特に「漢文資料を通じて見る『般若灯論』の成立と伝承－漢訳のテキスト校訂と再評価の試み－」という研究課題(科研費若手研究 21K12839)に取り組んでいる。『般若灯論』は、ナーガールジュナ(龍樹)の『根本中頌』に対するパーヴィヴェーカの注釈書であり、思想上極めて重要である。残念ながらサンスクリット原典が現存せず、漢訳とチベット語訳でのみ伝わる。そのうち漢訳は資料的価値がないとみなされ、長らく利用されてこなかった。しかし近年、漢訳の資料的価値を見直す動きが出ており、またそれに呼応して同書のテキスト成立・伝承についていくつかの仮説が提出されている。こうした状況を踏まえ、本研究は、(1)世界初となる日本古写経を用いた漢訳のテキスト校訂と(2)翻訳上の特徴の分析を通じた漢訳の再評価を行い、漢訳『般若灯論』の原形と実態に迫る。それにより、『般若灯論』のテキスト成立・伝承の過程に新たな視座を提供し、今後の『般若灯論』研究の礎となることを目指す。

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)	